

No.	種別	名称	指定年月日
1	絵画	日本志東山 陸奥出羽国図	S45.10.30
2	彫刻	岩屋虚空蔵菩薩坐像・脇侍	
3	典籍	龍泉寺鉄眼判大般若経	S47.1.17
4	絵画	龍泉寺絹本着色仏涅槃図	S47.3.22
5	絵画	龍泉寺絹本着色十六善神像	
6	有形民俗資料	金蔵寺歡喜天社絵馬	S47.12.26
7	天然記念物	大久保の念仏杉	
8	天然記念物	安座・堀越山のコウヤマキ	S50.1.17
9	歴史資料	安藤有益関係資料一括	
10	歴史資料	真福寺大般若波羅蜜多経第一・同経典裏打文書	S50.1.21
11	彫刻	西光寺木造阿弥陀如来坐像脇侍・胎内仏	S55.4.9
12	工芸品	木製花瓶一对	
13	天然記念物	宇陀帰山大山祇神社参道杉並木と境内社木	S58.2.18
14	天然記念物	安座赤城山神社の社木 コウノヤマ・アスナロ・モミ	
15	史跡	野沢諏訪神社前の一里塚	S60.7.30
16	有形民俗資料	屋敷人形芝居道具一式	
17	工芸品	如法寺金口（鱈口）	S62.4.1
18	工芸品	如法寺観音堂高欄擬宝珠	
19	工芸品	良寛筆摸刻「松尾大明神」社額	S63.4.1
20	史跡	大杉山村慶長地震遭難者供養塔	
21	有形民俗資料	龍蔵寺薬師瑠璃光如来おみくじ 用具一式	H1.4.1
22	工芸品	如法寺大般若経唐櫃	
23	工芸品	如法寺御正体・銅造聖観音坐像 懸仏	H2.4.25
24	工芸品	旧善応寺御正体・銅造薬師如来 坐像 懸仏	
25	史跡	高目村石造名号塔婆（板碑）	H3.6.1
26	史跡	西光寺宝篋印塔	
27	史跡	榎木峠「上様御小休所」碑	H6.3.24
28	史跡	宝川の一里塚	
29	天然記念物	地境の柿の木	H12.4.25
30	天然記念物	下條の普賢象桜	
31	彫刻	善光寺式銅造観音菩薩立像・善 光寺式銅造勢至菩薩立像	H27.4.16
32	史跡	享保 句碑	
33	歴史資料	慶長八年大杉山村御水帳	H29.11.16
34	天然記念物	安座弘法岩周辺の植生	
35	天然記念物	ギフチョウ	H31.2.28
36	天然記念物	キマダラルリツバメ	
37	彫刻	如法寺木造聖観音菩薩坐像	R2.10.22
38	彫刻	如法寺木造三十三観音応現身像	
39	歴史資料	長谷沼家資料	R2.10.22
40	考古資料	芝草・小屋田遺跡出土品	
41	考古資料	上小島遺跡出土品	



▲ 阿弥陀寺御三階（会津若松市・七日町）



▲ 栄螺堂（会津若松市・飯盛山）

町指定重要文化財に 新たに3件を追加

10月22日、町指定重要文化財として「長谷沼家資料」「芝草・小屋田遺跡出土品」「上小島遺跡出土品」の3件が新たに加わりました。

文化財とは、人類の長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられた貴重な財産であり、地域の特性や魅力を持ち合わせた宝物です。

今月号では、その3件の文化財について紹介します。



▲ 会陽医院時代の野口清作（写真右）



▶ 会陽医院



▶ 七日町（会津若松市）

No39. 長谷沼家資料

種別：重要文化財（歴史資料）

年代：明治時代中期～

昭和時代初期

「長谷沼家資料」は、長谷沼兵作が明治中期から昭和初期にかけて収集した写真を中心とした資料470点になります。

長谷沼兵作は明治6年（1873）に高目村に生まれました。渡部鼎が明治23年（1890）、会津若松で会陽医院を開設すると、書生として住み込み、医学や英語を学び、また後輩の指導にもあたりました。その中には左手を手術した会陽医院に入門し、医学の道を志した野口清作（のちの英世）もいました。その後、兵作は鼎とともに上京し、付き人として一生を過ごし、昭和7年（1932）、59歳で亡くなりました。

この資料は、兵作の幅広い交友関係を示す友人・知人の写真が最も多く、会陽医院時代の清作が写っているものもあります。また、明治中期の若松や福島などの風景や建物の写真も多く残され、阿弥陀寺御三階のもっとも古いとされる写真や会陽医院の建物を写した現存唯一の写真など、当時の様子や人々の風俗などを知ることができる非常に歴史的価値の高いものになります。

No40. 芝草・小屋田遺跡出土品

種別：重要文化財（考古資料）

年代：縄文時代中期～後期

芝草・小屋田遺跡は野沢字浦道添、芝草後、小屋田に位置する東西 300 m、南北 320 m、総面積約 70,000㎡の今から約 5,000 年前にあった大集落跡になります。

この遺跡の発掘調査は国道 49 号の改良工事などによりこれまでに 3 回行われ、竪穴住居や敷石住居、土坑などが見つかりました。今回の出土品は調査で発見された縄文土器のほか土偶などの土製品、石鏃^{せきぞく}や石斧などの石器・石製品 353 点で、狩猟や生活などで使っていたものになります。



（写真撮影・小川忠博氏）

No41. 上小島遺跡出土品

種別：重要文化財（考古資料）

年代：縄文時代中期～後期

上小島遺跡は上小島集落の北東約 500 m の登世島字塩田、舟場上、馬場下に位置する縄文時代中期の大集落跡で芝草・小屋田遺跡と同じ年代になります。上小島遺跡のすぐ北側には阿賀川が流れ、日本海から遡上するサケやマスを取り、近くの山からは山菜、きのこ、ドングリなどのほか、クマやタヌキなどの野生動物を捕獲するなど、山や川から豊かな恩恵を受けていました。

上小島遺跡の発掘調査はこれまでに 2 回行われ、今回はその調査で出土した縄文土器や石器など 895 点を指定しました。



（写真撮影・小川忠博氏）

西会津町から出土した縄文土器の重要性

芝草・小屋田遺跡や上小島遺跡からは独特な文様や造形を持つ芸術的にも価値が高い縄文土器が数多く出土しています。そもそも西会津町は会津地方西部に位置し、北陸、関東、東北の三大文化圏が重なる特異な地域です。西会津町で出土した縄文土器にもそれぞれの文化圏で作られた文様、造形などの特徴が混ざり合い、種類に富んだ土器が多くみられます。

また、縄文時代中期の土器といえば新潟県信濃川流域の「火焰型土器」が有名ですが、近年の研究ではその起源は会津地方西部にあるという学説が有力になっています。土器の上部に付けられた横 S 字状文が、徐々に頂部にせり上がり、それが鶏のトサカのような鶏頭冠^{けいとうかん}やギザギザ模様の鋸歯状文^{のこぎりあし}など多様な文様や造形に変化し、発展していったとされ、西会津町から出土した縄文土器の中にもその過程を観察できるものがあります。

現在、芝草・小屋田遺跡と上小島遺跡の出土品は、旧新郷小学校で保管しています。

文化財を次世代へ継承する

文化財は、先人の不断の努力によって保存・継承されたものであり、私たちの誇りといっても過言ではありません。町ではこれらの文化財を指定・未指定にかかわらず、保存して次世代に引き継ぐとともに、地域おこしや観光の資源として活用していきます。

〈問い合わせ先〉

町公民館 ☎ 45-3244